



日本プライマリ・ケア連合学会
四国ブロック支部



発行人：阿波谷敏英、川上和徳
事務局 〒761-2103
香川県綾歌郡綾川町陶 1720-1
綾川町国民健康保険陶病院気付
副支部長/事務局長 川上和徳
Tel. 087-876-1185 Fax. 087-876-3795
E-mail jpicaardk@yahoo.co.jp

★ 第24回日本プライマリ・ケア連合学会四国ブロック支部地方会／第31回四国地域医学研究会 合同学術集会のご案内 (第2報)

大会長： 原 穂高 (愛媛生協病院)

2024年11月16日、17日に第24回日本プライマリ・ケア連合学会四国ブロック支部地方会を開催する運びとなりましたので、ここにご案内申し上げます。

近年、日本各地で自然災害が相次いでおります。2024年初頭の能登半島地震、そして4月と8月に四国も大きく揺れた地震など、記憶に新しい出来事があります。このような状況を踏まえ、当初、災害医療をテーマの一つとして取り上げることとしていました。

災害時の医療対応は多岐にわたり、2日間で全てを網羅することは困難ですが、私たちプライマリ・ケアに従事する者として、今後起こりうる災害に備えて議論を深めることは極めて重要であると考えております。

また、近年の社会情勢を鑑みると、社会的弱者や適切なサポートを受けられていない方々へのケアの重要性が一層高まっています。震災やコロナ禍といった状況下において浮き彫りになりました。カナダ家庭医学会の家庭医療4つの原則にも「家庭医は診療の対象となる人口集団の健康のためのリソースの一つである」と記されています。

こうした背景から、本地方会では『Vulnerable and Underserved populations care』をテーマとしたパネルディスカッションを企画いたしました。現場で直接関わりを持つ先達に登壇していただき貴重な学びを得る機会となることを期待しております。さらに能登半島地震の際に現地で診療支援を行われた清水雄三先生に、その経験をお話いただく予定です。

また、日本プライマリ・ケア連合学会理事長の草場鉄周先生には、プライマリ・ケアや総合診療の専門性を高める意義についてご講演いただきます。

懇親会は、伊予鉄高島屋内のカフェダイニングを貸し切りにて開催いたします。リラックスした雰囲気の中で、参加者の皆様との交流を深めていただければ幸いです。

多くの皆様のご参加と演題発表を心よりお待ちしております。

**第24回日本プライマリ・ケア連合学会
四国ブロック支部地方会
第31回四国地域医学研究会
合同学術集会の御案内**

Vulnerable and Underserved populations care

**2024年11月16日(土) 13時～17時30分
2024年11月17日(日) 8時30分～12時40分**
愛媛県立中央病院管理棟講堂 ハイブリッド開催
大会長：愛媛生協病院 原 穂高

11月16日(土)

13:00～ 四国地域医学研究会総会
13:30～ 受付、ログイン開始
14:00～ 開会式
14:10～ 一般演題 1
15:00～ JPCA理事長講演
北海道家庭医療学センター理
事長 草場鉄周先生
16:00～ パネルディスカ
ッション『Vulnerable and
Underserved Populations
Care』
～17:30 清水雄三先生ほか
18:30～ 懇親会(伊予鉄高
島屋3F サンタサンタ)

11月17日(日)

8:30～ ポートフォリオ発表会
10:00～ 専攻医部会の紹介
10:10～ 一般演題 2
11:20～ 一般演題 3
12:30～ 閉会式
12:45～ 四国ブロック支部総会
12:45～ キャリア・カフェ・ミニ

大事なこと

【演題応募締め切り】
10月7日
【参加登録締め切り】
10月20日
【スライド締め切り】
10月31日
【その他】
カジュアルな服装
朝ラン
キャリア・カフェ・ミニ
【お問い合わせ】事務局
西予市立野村病院 西予サテライト
センター
内科 二宮大輔
98065dn@jichi.ac.jp
事務局 岡山陽子
okayama.yoko.my@ehime-
u.ac.jp
CCで送ってください
〒797-1212 愛媛県西予市野村町野
村9号53番地
電話 0894-72-0180
Fax 0894-72-0938

主催
日本プライマリ・ケア連合学会四国
ブロック支部
四国地域医学研究会
共催
地域医療振興協会

【申し込みフォーム】
<https://forms.gle/q6D2MuCjvH23g2c8>

Bienvenue à Ehime!

第 24 回日本プライマリ・ケア連合学会四国ブロック支部地方会
／第 31 回四国地域医学研究会 合同学術集会

【開催日程】 2024 年 11 月 16 日（土）13 時～17 時 30 分
2024 年 11 月 17 日（日）8 時 30 分～12 時 40 分

【会場】 ハイブリッド開催
愛媛県立中央病院 管理棟講堂（愛媛県松山市春日町 83）

【プログラム】

■第 1 日目 11 月 16 日（土） 13:00～ 四国地域医学研究会総会 13:30～ 受付、ログイン開始 14:00～ 開会式 14:10～ 一般演題 1 15:00～ 日本プライマリ・ケア連合学会理事長講演 北海道家庭医療学センター 理事長 草場鉄周先生 16:00～ パネルディスカッション 『Vulnerable and Underserved Populations Care』 18:30～ 懇親会（伊予鉄高島屋 3F サンタサンタ）	■第 2 日目 11 月 17 日（日） 8:30～ ポートフォリオ発表会 司会：高松平和病院 佐藤龍平先生 10:00～ 専攻医部会の紹介 10:10～ 一般演題 2 11:20～ 一般演題 3 12:30～ 閉会式 閉会挨拶・次回開催県挨拶 12:45～ 四国ブロック支部総会 12:45～ キャリア・カフェ・ミニ
---	--

【演題/参加申込み】

[こちらのリンク](#)、もしくは、右の QR コードからお申し込みをお願いします。
参加申込は 2024 年 10 月 20 日締切り、演題申込は 10 月 7 日締切りです。
演題発表の方は、10 月 31 日までに発表スライドの提出をお願いします。

【そのほか】

平服（普段着）でいらっしゃってください。
オプション企画で朝ラン、キャリア・カフェ・ミニを行います。

【会費】 大会参加費 無料 懇親会費 6,000 円（学生 1,000 円）

【問い合わせ先】

実行委員会事務局 西予市立野村病院 西予サテライトセンター

内科 二宮大輔 98065dn@jichi.ac.jp

事務員 岡山陽子 okayama.yoko.my@ehime-u.ac.jp

メールは cc : (カーボンコピー) でお送りください。

〒797-1212 愛媛県西予市野村町野村 9 号 53 番地 電話 0894-72-0180 Fax 0894-72-0938



★ 総合診療セミナー&ワークショップ 「医療従事者のための心の診かた 医学的に説明できない症状を解決できるようになる為に」

高知家総合診療専門研修プログラム 事務局
岩下演久（高知大学医学部家庭医療学講座）

高知家総合診療専門研修プログラムの主催で標記のセミナー&ワークショップを開催しました。講師として信愛クリニックの井出広幸先生にお越しいただきました。井出先生はバージニア州立医科大学 精神科・内科・家庭医科准教授 Robert. K. Schneider 先生が考案された、「内科医が自分なりにかつ妥当に精

神科的対応ができるようになるための教育訓練システムである PIPC (Psychiatry In Primary Care)」の日本でのエヴァンジェリストとして承認されている方です。(PIPC 研究会のウェブサイト <http://pipc-jp.com/> から一部改編)。

高知家総合診療専門研修プログラムの専攻医、指導医だけでなく、他科の先生方や総合診療に興味を持ってくれている研修医、医学生、プライマリ・ケアに関わる薬剤師やクリニックの事務の方など幅広い経験をお持ちの方が参加してくださいました。

医療現場において患者さんの訴える症状で医学的に説明できないもの (MUS: Medically Unexplained Symptoms) も少なくありません。いくら検査しても異常が見られなかったときに、「異常のないこと」に納得できず多くの医療機関を受診される方もおられます。このような症状に対して、プライマリ・ケア医ならできること、プライマリ・ケア医にしかできない医療があることを、今回のセミナーの中で教えていただきました。

グループに分かれた実践では、MAPSO (Mood、Anxiety、Psychoses、Substance induced、Organic/Other) システムというフォーマットに従って効率よく問診する流れと共に、どうしても長くなりがちな患者さんの話をコントロールする方法についても、ロールプレイを通して体験することが出来ました。このようなシステムティックな問診は、プライマリ・ケア医がこのまま関わり続けるのが良いのか、それとも精神科への紹介の必要性があるのかを判断する為に用いることが出来、外来を効率よく進めると共に、患者さんにとっても満足いく診療をするためのツールとして非常に有用に感じました。

その他にも外来での具体的な薬物療法の方法や、井出先生のご専門であるトラウマについて、ご自身のご経験も踏まえて非常に専門的な話も聞かせていただけるなど、私としては精神のもっと深い領域に踏み込んでみたいと思えるようなセミナーとなりました。



受講後のアンケート (回答者 21 人) では、「セミナーのわかりやすさはどうでしたか」という質問には、大変わかりやすかった 85.7%、わかりやすかった 14.3%、「セミナーの内容は期待したものと一致していましたか?」という質問には、期待以上であった 76.2%、ほぼ期待通りだった 23.8%、と参加者の皆さんの持つ期待に応えることが出来たのではないかと思います。自由意見でも「MAPSO 問診を明日からの臨床に使ってみようと思う」「対応して難渋している患者さんとかをチームで支えていけたらと思いました。」「高齢者の不眠、不安への薬物療法などは実際の現場で活用します。」のようにすぐに現場で活用できる知識・技術が得られたという意見だけでなく、「幼少期に心理的安全性を得られる

かどうかという原体験が、その後の人生の行動原理にも関わってくるというのがお話の中でとても納得できた(一部改変)。」といったトラウマに関する意見があるなど、皆さんにとって有意義なセミナーであったことが伺えました。

井出先生、有難うございました。

★ 第5回 Sanuki GM Conference

かがわ総合診療研究会 世話人/当カンファ事務局
横井 徹(横井内科医院)

第5回 Sanuki GM Conference が2024年8月24、25日の土日、当番世話人香川県立中央病院院長高口浩一先生のもと、同病院1階講堂で開催されました。開催母体の「かがわ総合診療研究会」は、総合診療領域専門研修プログラムを持つ県内全施設、学生研修医教育に関わるプライマリ・ケア医、香川県医師会、香川県医務国保課も加わり「オール香川」で総合診療医専攻医育成に繋がる場を作る目的で、2年前発足しました。2023年3月から各施設持ち回りで Sanuki GM Conference をこれまで4回開催しており、今回が5回目です。通常土曜日午後開催ですが、今回は21世紀適々斎塾(社団法人西日本臨床医学研修機構)とのコラボ企画として2日間となりました。

土曜日はパネルディカッション「総合診療医のキャリアパスを大いに語ろう」、日曜日午前はHIV/AIDS患者とのかかわりをPCCM・SDHから、午後は「ホンモノの症例検討のトリセツ」として症例検討会での学びを明日からの診療に実装するコツを、総合診療/家庭医療の観点から双方向ディスカッションで楽しみました。参加者はハイブリッド開催の土曜日はリモート・現地それぞれ約30名、現地参加のみの日曜日は最大30名でした。

土曜日のパネルディカッショントップバッターは香川大学5年生伊達翼さん。今のところ総合診療を志向する地域卒学生として「総合診療への期待と不安」を話されました。その後それに応える形で、馬越隆光先生(綾川町国保陶病院:総合診療専攻医)、横田雄也先生(岡山大学総合診療科)、水谷肇先生(大阪医科大学総合診療科)がそれぞれのキャリアパスについて赤裸々にプレゼン、さらにはコメンテータ佐藤龍平先生(高松平和病院)、大塚勇輝先生(岡山大学)、原田侑典先生(獨協医科大学)も加わり、参加者全員で種々の問題点を共有できたと思います。参加されていた香川大学岡山大学学生さん達にも、ともすればネガティブに捉えられがちな「総合診療/家庭医療専門医としての将来像」についての現状を踏まえながらも「開拓者としての意味」「フロンティアスピリット」のポジティブな要素を示せたのではないかと思います。



終了後の懇親会には36名が参加し、大学3年生から76歳医師までの幅広い年代が集って情報交換・交流の時間を楽しみました。

日曜日午前、自治医科大学卒の浮田健太朗先生（上野原市立病院）。香川県立中央病院研修医時代に担当した外国籍HIV/AIDS患者を感染症専門医総合診療医のアドバイスのもとケアできた事例を共有しました。6年目医師とは思えない周到に準備された素晴らしい進行のもと、総合診療家庭医療の視点がケアに役立った経緯を参加者全員で追体験することができました。午後は原田侑典先生（獨協医科大学）および西信俊宏先生（在宅診療敬二郎クリニック）による、真夜中に総合病院ERを受診した頭痛患者の事例で臨床推論セッション。この手のセッションはともすれば「病名当てクイズ」になりがちですが、「真の受診理由を探る」ことを意識することにより参加者各自の臨床セッティングに直接役立つ実装のイメージが浮かぶように工夫された素晴らしいひと時でした。

今後香川県においても総合診療/家庭医療/プライマリ・ケアを志向する若き医師が増えるような企画が継続して行われるといいなあと感じた2日間でした。

★ PCAT 導入研修パイロット版 参加報告

四国ブロック支部長 ： 阿波谷敏英（高知大学医学部家庭医療学講座）

9月7、8日に東京で開催されましたPCAT導入研修に参加して参りました。これは災害医療システム委員会が企画したものです。PCATは、2011年の東日本大震災の際に気仙沼を中心に3年間にわたりおこなった日本プライマリ・ケア連合学会による支援活動でした。当時のPCATはPrimary Care for All Teamを略したものでした。その後、熊本地震にもPCAT2016として活動しました。

発災時のみに行動するのではなく、平時より訓練された会員を養成しておき、組織的に質の高い活動を展開する必要があるという機運が高まり、2022年にはPCAT活動方針について理事会承認され、PCATはPrimary Care Assistance Teamを略したものとすることが定められました。2023年度には、災害支援活動に関する規則、細則が理事会承認され、導入研修を受講した者が認定されPCAT登録者となることとなりました。災害医療システム委員会が研修を準備しており、2024年2月に第1回のパイロット研修を実施しています。各ブロック支部から少なくとも1名の参加者をとのことでしたが、残念ながら四国ブロック支部の執行部で参加できる者がおりませんでした。今回、第2回の研修会にお声がけをいただきましたので、私が参加をさせていただくこととなりました。

なお、ご承知のように、2024年1月1日に能登半島地震が発災しました。残念ながら、今回の震災には、この新しい災害支援は間に合いませんでしたので、「令和6年能登半島地震支援プロジェクト」としての対応となりました。輪島市保健医療福祉調整本部の現地側代表として支援活動を行っている会員の活動をサポートするために、会員の所属する医療機関で診療を行なっています。保険医登録の問題があるために、手続きが不要である同じ厚生支局に属する中部ブロック支部の会員が支援しています。これは、新しい災害支援体制でも同様で、基本的にはブロック単位での支援が想定されています。今後は正式版として開催される年2回の研修会には、ぜひ四国ブロック支部からもたくさん出席していただければと思っています。

研修会は公的医療機関以外の小規模医療・福祉関連機関（診療所、訪問看護ステーション、老人福祉施設等）への支援をおこなう登録者を養成するものです。2日間にわたる研修は非常に充実した内容でした。PCAT 活動指針の説明、災害関連法規、組織運営、指示命令系統、災害薬事、メンタルヘルス、情報伝達、災害時の診療記録、など多岐にわたりました。DMAT、DPAT、DWAT、日本赤十字社の先生方もオブザーバとして参加していただいております、適宜、コメントをいただきました。DMAT 事務局から三村誠二先生も参加いただいております。三村先生は徳島県立中央病院救命救急センターでお勤めでしたし、2022 年 11 月に開催された四国ブロック支部地方会のシンポジウムにも登壇いただきましたのでご存知の会員の方も多いのではないかと思います。三村誠二先生（右）、香田将英先生（災害医療システム委員会委員長；岡山大学）（中央）とともに記念写真を撮らせていただきました。



講義だけでなく、グループワークがあったり、チャットボットによるメンタルヘルスのシミュレーションであったり、J-SPEED+を操作したりするセッションもあり、退屈することなく学べました。参加者は、全体で 30 名足らずでしたが、グループ替えも数回行われ、夜の懇親会も含め、ほとんどの方と話をし、SNS での繋がりもできました。中には、熊本地震、能登半島地震で受援者となった方もいらっしゃいましたので、そのお話をうかがったのも学びとなりました。



日本プライマリ・ケア連合学会 災害支援活動 PCATパイロット研修

Primary Care Assistance Team
2024年9月7-8日



南海トラフ巨大地震は、30 年以内に 70-80% の高い確率で発生すると想定されています。四国に暮らすわれわれにとっては、いつ受援者側になっても不思議ではありません。この研修会は PCAT として支援する者を養成する目的ですが、受援者になったとしても大変有用だと感じました。今後、正式開催が決まりましたら、広くアナウンスされると思います。多くの四国ブロック支部会員に受講していただければと思います。